

書き損じはがきを回収

諏訪ユネスコ協会が協力呼び掛け



書き損じはがきを回収している諏訪ユネスコ協会の会員たち

↑ 貢献する目的で、毎年行う活動。各学校などに回収ボックスを設置し、協力を呼び掛けている。

諏訪ユネスコ協会（矢崎靖雄会長）は、書き損じはがきを諏訪地域6市町村の小中学生や公共施設で回収している。ユネスコ（国連教育科学文化機関）の「世界寺子屋運動」に

回収ボックスは6市町村の公立小中学校、JA信州諏訪の各支所9カ所、諏訪市の湖南公民館、茅野市の市民活動センター「ゆいわく茅野」に設置。書き損じはがきのほか、未使用切手、テレホンカードも受け付ける。

回収したはがきなどは集計後、切手に交換し、日本ユネスコ協会を通して世界の学校に行けない子どもたちの支援に充てる。昨年は8242枚

を集め、募集金額は45万8998円だった。アフガニスタン、カンボジア、ミャンマー、ネパールのアジア4カ国に寄付した。

2月3日まで受け付ける。矢崎会長は「世界中の子どもたちのため、家庭で眠っているはがきがあればぜひ協力してほしい」と話している。

（宮崎佳奈）